

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

全問マーク式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問4題・小問50問

出題の特徴や昨年との変更点

時代では近現代36%(うち戦後が10%)、近世26%、古代22%、原始10%、中世6%で、中世からの出題が少なく原始・戦後を下回った。

分野では文化40%、政治28%、社会経済18%、外交14%が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 空欄語群	中世・近世 文化	鎌倉時代から江戸時代の学問・書物 (A)鎌倉時代の学問、(B)南蛮文化、(C)江戸時代前半の儒教、(D)江戸時代後半の学問 中世・近世の学問について基本的事項が問われた。 文化史対策次第で高得点も可能。	やや易
[II]	選択 空欄語群	原始・古代 政治・社会経済 外交	弥生時代から古墳時代の政治連合の展開 (A)小国の展開と邪馬台国連合、(B)前方後円墳の展開とヤマト政権 (1)「唐古・鍵」遺跡、(4)「須玖岡本」遺跡、(7)「百舌鳥・古市」古墳群、(10)「岡田山1号墳」など遺跡を問う問題で差がついたであろう。	標準
[III]	選択 用語3択 空欄3択 (史料)	近現代 政治・社会経済 外交	近現代の史料問題 (A)松方正義の貨幣法案提出理由(『日本金融史資料 明治・大正編』)、(B)二・二六事件蹶起趣意書(『現代史資料』)、(C)沖縄返還決定に関する琉球政府主席声明(朝日新聞)。 問3「英」京は難。問7「神武」、問9「倫敦」はやや難。資料(C)の沖縄返還を巡る史料問題には多くの受験生が苦戦したであろう。	標準
[IV]	選択 用語3択 (会話文)	古代～近代 政治・外交・文化	インバウンド観光と日本文化 (9)「菩提僊那」、(11)「兼六園」は難だが「菩提僊那」は過去に出題例あり。(6)「鎮台」、(15)「榎本健一」はやや難。(13)「庶物類纂」、(14)「川端康成」などもやや難だが、本学受験生なら正解してもらいたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ①基本事項を問う問題が多いことから、教科書中心の学習を徹底することが肝要である。
- ②史料問題は全ての日程で出題されている。教科書や市販の史料集などに掲載されている基本的な史料を中心に対策を立てておきたい。
- ③文化史からのからの出題が全時代を通じて多く、難度も高い。また、図版を使用した問題もみられるので、教科書の図版を含めた文化史対策が重要である。
- ④地図を用いた問題や、歴史地理的事項を問う問題は頻出である。日頃から教科書掲載の地図や文章中の地名などなどを確認しながら学習すること。
- ⑤同一事項や史料が繰り返し出題される。過去問の研究は必須である。